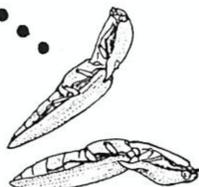




甲虫ニュース

COLEOPTERISTS' NEWS



日本産步行虫ノート VII: ゴトウオオズナガゴミムシについて*

笠原 須磨生

ゴトウオオズナガゴミムシ *Pterostichus amanoi* NAKANE, 1968, は九州の西海につらなる長崎県五島列島の福江島荒川で、1966年11月に天野昌次氏が採集した2頭の雄の標本に基づいて記載された特産種である。本種に関しては、その後追加の記録がなく、中根(1983)による雄の腹部腹板末端節の図を添えた解説があるのみで、雌についても未知のままになっている。また、今坂・江島(1981)による五島列島の甲虫相の解説中に写真で示された中通島産の雌の個体は、その形態と今坂氏の私信から推測して、五島列島に別種が存在することを示唆する興味深いものではあるが、*amanoi* ではないように見受けられる(KASAHARA & MATSUMOTO, 1990)。

最近、筆者は長崎県の池崎善博、野田正美両氏のご好意により、*amanoi* と思われる福江島産の雌雄の標本を調べる機会に恵まれ、基準標本とも比較して、それらが*amanoi* に相違ないことがわかったので、ここに図示再記載しておく。

はじめに、貴重な標本をご恵送くださった池崎善博、野田正美両氏、五島列島の甲虫相についてご教示くださった今坂正一氏、基準標本との比較検討に際してお世話になった中根猛彦博士に心から厚くお礼申し上げる。

Pterostichus amanoi NAKANE

ゴトウオオズナガゴミムシ

NAKANE, 1968, pp. 85-86(Arakawa, Gotô Is.); 中根, 1983 p. 16, fig. 2-c; —今坂・江島, 1981, pp. 353-355, 360; —平島, 1989, p. 216; —

KASAHARA & MATSUMOTO, 1990, pp. 39-43.

体長 16.3-18.3 mm. 体幅 4.7-5.5 mm. 黒色。口器、触角、肢、体下面は赤褐色-暗赤褐色。頭、胸部は光沢があり、上翅は基部と側縁部(第9間室)をのぞき雄は光沢が鈍く、雌は光沢がない。

頭部は幅広く、大顎は長い; 原記載と中根(1983)の解説には、大顎の先端前の下縁に歯があると記されているが、歯は認められず、小顎内葉の先端が黒色で、大顎内縁から突き出して見えることがあり、これを誤認したものと考えられる; 眼は小さく、弱く凸隆する; 側頭は眼より長く、ふくらむ; 頬は口裂との間にこまかいしわがある; 前頭溝は平行、もしくは少し後方へ開く; 側溝は深く、眼の後方へ側頭のなかば近くまで延び、後部の眼上毛に達する; 触角は適度に長く、上翅の肩部後方に達し、柄節-第5節の略比は 1:0.6:0.9:0.9:0.8; 第2節先端部の刺毛は 1。

前胸背板は亜心臟型。かるく凸隆し、前方1/4-1/3

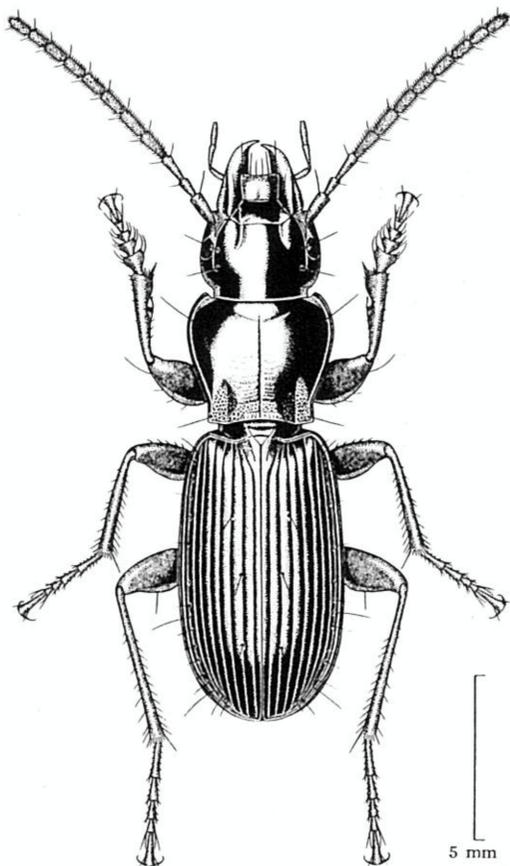


図1. *Pterostichus amanoi* NAKANE, ♂: 長崎県福江島笹岳産。

* KASAHARA, S., Notes on Japanese ground beetles, VII: On *Pterostichus amanoi* NAKANE

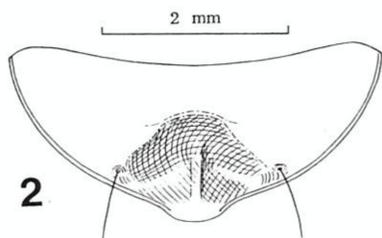


図2. *Pterostichus amanoi* NAKANE: 長崎県
福江島笹岳産, 雄腹部腹板末端節.

でもっとも幅広く, 頭部の1.2倍幅(前胸幅/頭幅 1.21-1.24), 長さの1.3倍幅(前胸幅/前胸長 1.30-1.32); 前縁はゆるやかに湾入し, 両側がわずかに波曲する; 前角は突出し, 先端はまるい; 後縁は中央部が広く湾入し, 両側のやや斜めの部分のみ縁取られる; 後角は直角に近く, 先端はとがらない; 基部は凹陷も含めて強く, ややしわ状に点刻され, 中央条の両側に横しわがある.

上翅は長方形, 先端はまるく, 左右はゆ着する; 前胸より少し幅広く(上翅幅/前胸幅 1.14-1.17), 前胸の2.5-3倍弱の長さ(上翅長/前胸長 2.54-2.70), 長さは幅の2倍弱(上翅長/上翅幅 1.76-1.82); 基縁は直線状で斜め; 肩はまるい; 基部小条は短かく, 第1間室にある; 条線はやや深く, 弱い刻みがある; 間室は隆まり, 等径状の微細印刻が明らかで, とくに雌では強く刻印される; 第3間室の孔点は3; 側縁の丘孔点は19-21.

体下面は中胸と腹部腹板の基部2節が点刻されるほかは, ほぼ滑沢; 雄の腹部腹板末端節は中央後半がやや深く凹み, 凹陷の中央は縦に弱く隆起して, 後縁の中央部が弧状に張り出す.

雄交尾器の陰茎は基部2/5で強く屈曲し, 前半部は太く, 先端片は三角形で小さく, 先端はまるい; 内袋の開口部近くに湾曲した細長い骨片がある; 左側片の先端は弧状; 右側片は単直で, 先端はまるい.

検視標本. 1♂, 長崎県福江島笹岳, 30. iv. 1989, 池崎善博採集; 1♂, 同, 30. iv. 1989, 野田正美採集; 1♀, 同, 2. v. 1988, 池崎善博採集.

備考. 本種は, 各部の形態的特徴からみてヒコサンオゾナガゴミムシ *P. macrocephalus* HABU, 1955, の近縁種であることに相違ないが, 後者の九州本土各地に分布する個体群と比較すると特化が著しく, 体形と雄交尾器も明らかにことなっている.

九州西部における甲虫類の種分化の様相については, 今坂(1989)が多くの“分化線”を想定して詳しく述べている. ちなみに, ごく最近, 五島列島から記載されたゴトウナガゴミムシ *P. gotoensis* KASAHARA et MATSUMOTO, 1990, も九州本土西部に分布する近縁種間にみられる変異にくらべると変化がさらに著しく, *P. amanoi* とあわせて九州本土と五島列島間の分断隔離が大きく作用していることを想わせる.

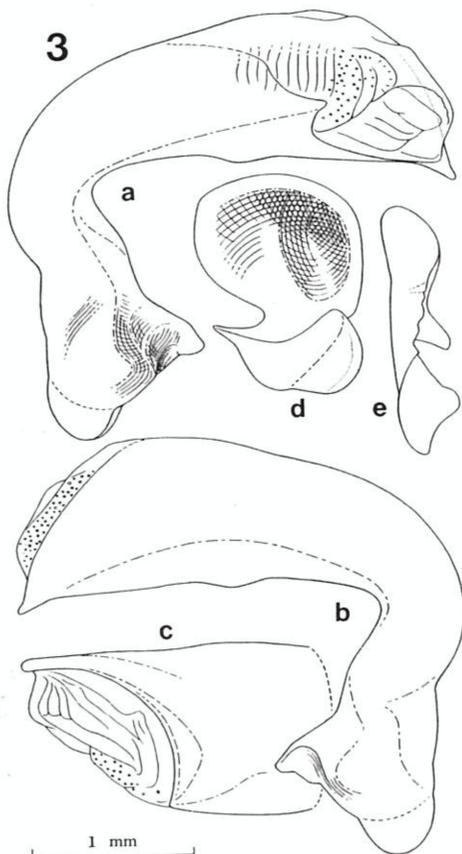


図3. *Pterostichus amanoi* NAKANE: 長崎県福江島
笹岳産, 雄交尾器——a-c, 陰茎; a, 左側面; b, 右
側面, c, 下面前半部; d, 左側片; e, 右側片

参考文献

- HABU, A., 1955. Über die *Pterostichus*-Arten vom Berg Hiko (Die Carabidenfauna vom Berg Hiko, VIII), *Bull. nat. Inst. agr. Sci.*, Ser. C, (5): 143-156.
- 平嶋義宏 (監修), 1989. 日本産昆虫総目録 I i-xiii+1-540pp. 九州大学, 福岡.
- 今坂正一, 1989. 長崎県の甲虫相 分化線からみた甲虫相. 長崎県の生物, pp. 177-184. 長崎県生物学会, 長崎.
- , 江島正郎, 1981. 五島列島の甲虫類相について. 五島の生物, pp. 353-362. 長崎県生物学会, 長崎.
- KASAHARA, S., & T. MATSUMOTO, 1990. A new *Pterostichus* (Coleoptera, Carabidae) from the Gotô Islands off western Kyushu, southwest Japan. *Elytra, Tokyo*, 18: 39-43.
- NAKANE, T., 1986. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XXVIII. *Fragm. coleopt.*, (21): 85-86.
- 中根猛彦, 1983. 日本の甲虫(62)(新シリーズ). 昆虫と自然, 18(6): 14-18.

(千葉県船橋市)

京都府冠島の甲虫 (続き)

大石久志

3. 目録 (続き)

- 31. クロバネナガハネカクシ *Xantholinus pleuralis* SHARP*
3頭, 1. viii, 落葉下.
- 32. ヒゲプトハネカクシ *Aleochara lata* GRAVENHORST*
4頭, 31. vii, 腐肉.
- 33. チビコブスジコガネ *Trox scaber* (LINNÉ)
1頭, 31. vii; 5頭, 1. viii, 白骨化したオオミズナギドリの屍体より (4頭). 土中に潜んでいて大変に見出しにくい. 他に落葉下および燈火でそれぞれ1頭ずつ採集した.
- 34. マメダルマコガネ *Panelus parvulus* (WATERHOUSE)
1頭, 31. vii, 落葉下.
- 35. コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis* WATERHOUSE
7頭, 31. vii, 腐肉および人糞.
- 36. クロツツマゴソコガネ *Saprosites japonicus* WATERHOUSE
3頭, 31. vii; 1頭, 1. viii, 落葉下および土化した朽木. 本種は朽木に生息するとされているが, 各地で落葉下に普通に見出される.
- 37. ビロードコガネ *Maladera japonica* (MOTSCHULSKY)
1頭, 31. vii.
- 38. マメコガネ *Popillia japonica* NEWMANN
1頭, 31. vii; 1頭, 1. viii.
- 39. シロテンハナムグリ *Protaetia orientalis submarmorea* (BURMEISTER)
1頭, 31. vii.
- 40. キョウトアオハナムグリ *Protaetia lenzi* (HAROLD)
1頭, 1. viii.
- 41. コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* (FALDERMANN)
1頭, 31. vii.
- 42. タمامシ *Chrysochroa fulgidissima* (SCHÖNHERR)
1頭, 1. viii.
- 43. ムネアカチビナカボソタمامシ *Nalanda rutilicollis* (OBENBERGER)
1頭, 1. viii.
- 44. ヒメチャイロコメツキダマシ *Fornax consobrinus* HISAMATSU*
1頭, 1. viii.
- 45. オオクシヒゲコメツキ *Tetrigus lewisi* CANDÈZE
1頭, 1. viii.
- 46. チャイロコメツキ *Haterumelater bicarinatus* (CANDÈZE)
1頭, 31. vii; 2頭, 1. viii. 黒化が著しい.
- 47. ヒメホソキコメツキ *Procraerus helvolus* (CANDÈZE)*
1頭, 31. vii.
- 48. クリイロアシプトコメツキ *Anchastus aquilis* CANDÈZE
1頭, 30. vii; 2頭, 31. vii.
- 49. オオナガコメツキ *Elater sieboldi* CANDÈZE
3頭, 30. vii; 4頭, 31. vii.
- 50. クシコメツキ *Melanotus legatus* CANDÈZE
1頭, 30. vii.
- 51. クロツヤクシコメツキ *Melanotus annosus* CANDÈZE
1頭, 30. vii.
- 52. ケモンセスジシバンムシ *Xyletinus tomentosus* SAKAI*
1頭, 30. vii; 1頭, 31. vii. 燈火.
- 53. イガラシカッコウムシ *Tillus igarashii* KONO*
2頭, 1. viii.
- 54. マメヒラタケシキスイ *Haptoncurina paulula* (REITTER)*
1頭, 30. vii; 1頭, 1. viii.
- 55. マルキマダラケシキスイ *Stelidota multiguttata* REITTER
5頭, 31. vii; 13頭, 1. viii. 湿地での1頭を除きすべて落葉下. 非常に多い.
- 56. クロヒラタケシキスイ *Ipidia variolosa* REITTER*
2頭, 31. vii, 落葉下. 次種と共にしばしば各地で落葉下に見出される.
- 57. アカマダラケシキスイ *Lasiodactylus pictus* (MACLEAY)*
2頭, 1. viii, 落葉下.
- 58. クロモンキスイ *Cryptophagus decoratus* REITTER*
1頭, 1. viii, 落葉下.
- 59. ハスモンクゲキスイ *Biphyllus rufopictus* (WOLLASTON)*
2頭, 31. vii; 1頭, 1. viii, 落葉下.
- 60. ケンコメツキモドキ *Microlanguria jansoni* (CROTCH)
1頭, 30. vii.
- 61. クロミジンムシダマシ *Aphanocephalus hemisphericus* WOLLASTON*
9頭, 31. vii, 落葉下に多い.
- 62. ムネビロカクホソカタムシ *Cautomus hystericulus* SHARP*
1頭, 1. viii, 落葉下. むしろ朽木に多く見られる種である.

63. ヒメアカホシテントウ *Chilocorus kuwanae*
SILVESTRI
1頭, 31. vii.
64. ヒメカメノコテントウ *Propylea japonica*
(THUNBERG)
1頭, 30. vii.
65. エグリツヤヒメマキムシ *Holoparamesus contractus* WOLLASTON*
1頭, 1. viii, 湿地.
66. フタオビツツキノコムシ *Cis bifasciatus*
REITTER
4頭, 31. vii, 落葉下.
67. マグラツツキノコムシ *Orthocis ornatus*
(REITTER)
7頭, 31. vii, 落葉下(1頭) およびキノコ.
68. アオツヤキノコゴミムシ *Platydemus marseuli* LEWIS
18頭, 31. vii; 1. viii, キノコに多い.
69. アメイロホソゴミムシ *Hypophloeus gentilis* (LEWIS)
1頭, 1. viii, 落葉下. 通常は朽木にみられる種である.
70. オオツヤホソゴミムシ *Menepphilus arciscelis* MARSEUL
1頭, 31. vii.
71. ルリゴミムシ *Encyalesthus violaceipennis* (MARSEUL)
1頭, 31. vii.
72. キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus*
MOTSCHULSKY
1頭, 30. vii; 1頭, 31. vii; 1頭, 1. viii.
73. シワナガキマワリ *Strongylium japanum*
MARSEUL
3頭, 31. vii; 1頭, 1. viii.
74. ハネナシセスジキマワリ *Strongylium marseuli* LEWIS
1頭, 30. vii; 2頭, 31. vii.
75. ズグロカミキリモドキ *Eobia ambusta* LEWIS
1頭, 30. vii.
76. ベーツヒラタカミキリ *Eurypoda batesi*
GAHAN*
1頭, 1. viii, 立木上.
77. ウスバカミキリ *Megopis sinica* WHITE
1頭, 1. viii.
78. オガサワラチャイロカミキリ *Comusia testacea* (GRESSITT)*
1頭, 31. vii; 1頭, 1. viii, 燈火および立木上.
79. リュウキュウヒメカミキリ *Ceresium fuscum* MATSUMURA et MATSUSHITA
2頭, 30. vii; 2頭, 31. vii; 2頭, 1. viii. すべて黄褐色の個体である.
80. チャイロヒメカミキリ *Ceresium simile*
GAHAN
1頭, 30. vii; 1頭, 31. vii; 2頭, 1. viii.
81. キイロメダカカミキリ *Stenhomalus nagaoi*
HAYASHI
1頭, 1. viii, 燈火.
82. フタオビミドリトラカミキリ *Chlorophorus muscosus* (BATES)
3頭, 31. vii.
83. ヨツズジトラカミキリ *Chlorophorus quinquefasciatus* (CASTELNAU et GORY)
1頭, 31. vii.
84. ナガゴマフカミキリ *Mesosa longipennis*
BATES
1頭, 31. vii; 1頭, 1. viii.
85. ゴマドラカミキリ *Anoplophora malasiaca*
(THOMSON)
1頭, 31. vii.
86. イモサルハムシ *Colasposoma dauricum*
MANNERHEIM
1頭, 30. vii, 青緑色にかがやく.
87. クロウリハムシ *Aulacophora nigripennis*
MOTSCHULSKY
1頭, 30. vii.
88. オビキノコヒゲナガゾウムシ *Euparis tamui*
NAKANE
1頭, 30. vii; 2頭, 31. vii; 3頭, 1. viii, 燈火および朽木. 稀種とされるが, 本島では多い.
89. カシルリオトシブミ *Euops splendida* Voss
2頭, 30. vii.
90. ミスジマルゾウムシ *Phaeopholus ornatus*
ROELOFS
1頭, 30. vii.
91. ツバキシギゾウムシ *Curculio camelliae*
(ROELOFS)*
1頭, 31. vii.
92. ヒサゴクチカクシゾウムシ *Simulatacalles simulator* (ROELOFS)
4頭, 1. viii.
93. アシナガオニゾウムシ *Gasterocerus longipes* KONO
1頭, 1. viii.
94. アカニセクチブトクイゾウムシ *Stenoscelodes hayashii* KONISHI
1頭, 31. vii, 落葉下.
95. ビロージマコキクイムシ *Scolytogenes biroshimensis* (MURAYAMA)
1頭, 30. vii, 食樹トベラは本島が北限となる.

4. 調査結果にあらわれた冠島甲虫相の特性

つぎに, 調査の結果, 気づいた事について若干述べることにする.

第1は, すでに丹が指摘し詳しく考察しているように, 日本海に浮かぶ小島ながら, 対馬暖流の影響をうけて, 南方系の種類が非常に多いことである.

実際、採集していると、立枯れにはシワナガキマワリが多く、花や倒木上をヨッスジトラカミキリ・フタオビミドリトラカミキリ・ムツボシナガハナアブ (*Milesia oshimaensis* SHIRAKI, 奄美大島および本島に分布、幼虫は朽木で育つとのことで流木による海流分布と考えられる。筆者も数頭採集して確認した。)などが多数、飛び交い、うっそうとした密林ともあいまって、一瞬、南方の島で採集しているような錯覚におそわれる。今回採集されたオガサワラチャイロカミキリもこの典型的な例としてあげることができよう。

第2は、カミキリムシなどの食材性の種、そしてこれらを食しているであろうコメツキムシなどの朽木性の種が、種類数・個体数とも多いことである。全島いたるところに立枯れ、倒木がみられるよう、当然といえなくもないが、今回もベーツヒラタカミキリのような大型種が発見された。ところがこれに対して、食菌性の種は非常に少ない。従来の記録もわずかであるが、今回もマダラツツキノコムシ・アオツヤキノゴゴムシシダマシ、キノコアカマルエンマシ程度であった。丹・塚本も種々考察しているが、筆者としては小島のため、湿度条件が不安定で、極端な乾燥にみまわれることが主たる原因と推察する。

第3はゴムシ類が豊富なことである。これまでの調査で21種類、今回さらに8種が追加された。これは、冠島が対馬暖流とともに、若狭湾南部の小環流の影響を強く受けていることに起因すると考える。すなわち、この環流に運ばれて、本土からの浮遊物がとくに西海岸に多量にうちあげられているのを実見したが、恐らくは、由良川の氾濫が主たる供給源となって、ゴムシなど海流分布が可能なグループは恒常的に進入を行っているのではないかと思われる。

第4は、オオミズナギドリの屍体に来集する種の存在である。滞在中、2頭の屍体を発見したが、死後まもないものには、エンマムシ、コクロシデムシ、ヒゲトハネカクシ、コブマルエンマコガネが群がっていた。また腐肉トラップを海岸および林中に設置したところ、海岸のものはハサミムシによってたちまちむさぼり喰われてしまったが、林中のものには上記の種がただちに来集した。さらにエンマムシは飛翔中のもも多数目撃した。

他方、白骨化した屍体にはコブスジコガネがみられ、2種記録されているうち、今回はチビコブスジコガネのみ採集したが、個体数は多い。なお、今後鳥の巢中を調査すると、さらに興味深い種が発見できるであろう。

5. 土壌性甲虫類

最後に、土壌性の種について若干ふれることにする。上述したとおり、林内には落葉の堆積した個所がほとんどみられず、予備知識はあったものの入島して初めて足を踏み入れたときは、正直いって啞然

とした。鳥流し同然の状態でなければ、ただちに帰途につくところである。しかし、非常に狭小な範囲ではあるが、鳥の進入・営巣の困難な平地の密林状の個所および、湿地のアシの群落下には落葉の堆積がみられ、発見された種も50種程度という、少ないとはいえぬ数となった。

ところで、現在、土壌性の甲虫は、未記載種も多く、また大半が微少種であるため同定が容易ではないことが大きな障害となって、地上性の甲虫に比べて調査が非常に立ち遅れており、報告も少ない。とはいえ、筆者のわずかな経験からみても、各地で相当に異なった甲虫相が認められ、同一地域でも植生、標高等で著しい変化を示す。そして、それぞれ特定の環境には、かなり一定した構成をとる甲虫相が見出される。ここでとくに留意すべきは、土壌性の甲虫がそれぞれ土壌の微環境に適応して生息している、非常に複雑な様相を呈していることである。こうした点を念頭において、各地域での調査・検討がなされるべきであると考えるが、いきおい膨大な作業とならざるを得ないのが最大の問題である。

それ故、冠島の土壌性甲虫相について云々するのはあまりに早計だが、若干の印象を記しておく。まず、①森林中の落葉下(これと明瞭には識別し難い倒木の土化した部分も若干含まれる)には、エグリゴムシ、チビミズギワゴムシ、マルキマダラケシキスイ、クロミジンムシシダマシの4種が最も普通にみられ、ついで、ガムシ、エンマムシ、デオキノコ(2種)、ハネカクシ、アリツカムシ(5種)などが、種類数、個体数とも多い部類に属する。他にオチバヒメタマキノコムシ、ムクゲキノコムシ(1種)、マメダルマコガネ、クロツツマグソコガネ、ケシキスイ、クロモンキスイ、ハスモンムクゲキスイ、ムナビロカクホソカタムシ、ツツキノコムシなどが見出された。これらのうち種名の確定したのを見ると、ほとんどが本州から九州にかけて広く分布し、とくに平地の照葉樹林の乾燥した個所に多く見出されるものである。最初に記した4種の個体数が多いことも、乾燥状態の端的な現われとみなされよう。一般的にいって、土壌中の甲虫はとくに湿度条件に強く支配されるようで、適度な湿度が安定して維持されるところ程、種類数・個体数共に豊富となり、極端な過湿や乾燥条件下では限定された種類のみが生息し、その個体数が増加する。前述したように冠島は小島のためにかたがた乾燥状態にみまわれるようで、種構成もこれに大きく規制されていると考えられる。なお、本島はこの要因によるだけではない特徴的な土壌性甲虫相を有しているようだが、さらに精査の上、論ずべきであろう。また今回同定から除外した種類は、地域的に分化しているものも多く含まれるので、これを調査することで、生物地理学的にも興味深い点が見出されるものと思われる。

また、落葉下とは異なった甲虫相がみられる大型植物遺体、すなわち朽木は、各所に見られるが良好

な条件のものが見あらず、今回は見るべき成果はなかった。

②湿地のアシ群落下は、降雨後は水没することもあるということだが、20~30 cmの厚さで湿潤な落葉が堆積している。ここで見出された種類は10種程で、森林の落葉下に比べるとかなり少ないが、マルキマダラケシキスイを除き、すべて異なった種類である。ミズギワゴミムシ、ハネカクシ、アリヅカムシ(2種)が多く、これらは落葉中に無数にみられるダニ、トビムシ、半翅類や双翅類の幼虫などを食していると思われる、すべて捕食性の種である。他にミジンムシの1種や、エグリツヤヒメマキムシが採集された。

また、この落葉層の深部にはカンムリセズゲンゴロウが発見された。本種はかつて、井戸などから採集されたが、井戸が見当たらない現在、採集困難との風評も耳にしていたが、今回真の生息環境と共に、個体数も決して少ないものではないことが確認できた。なお、井戸は30年程以前まで、雨乞いの神事がとり行なわれていたもので、筆者の入島後に舞鶴市教育委員会の文化財調査で再発見されたとのことである。

このアシ群落下の甲虫相は、かなり特異的で、少なくとも一般に平地の河口付近で見られるアシ群落下のそれとは相当に異なるようである。

③さて、冠島で最も興味深い問題は、オオミズナギドリが存在が土壌性甲虫相に与える影響であり、その中でもとくに関心をひくのは土中につくられた巢内の土壌についてである。しかし残念ながら抱卵の時期であったために詳しい調査は断念せざるをえなかった。手のとどく範囲の土をとり出して検した限りでは、ダニ類が認められるのみで、甲虫は発見できなかった。

なお、鳥によって踏み固められた地表面に、ツチスガリ(*Cerceris hortivaga* KOHL)が多数営巣しているのと、恐らくは放棄された穴であろうか、鳥の巢の中へトガリアナバチ(*Tachytes sinensis* F. SMITH)が直翅類を狩って運び入れるところを興味深く観察した。(両種とも筆者採集・同定、後者は冠島未記録)。

参考文献

- 丹 信実, 1956, 京都府冠島の生物, 平安学園研究論集, 1: 1~113.
 丹 信実・塚本圭一, 1955~57, 冠島(丹後国)の鞘翅目について(小島嶼に於ける昆虫類の研究 I), AKITU, Kyoto, 4: 69~76, 5: 21~22, 43~46, 63~64, 6: 94~97
 笹川満広ほか, 1983, 冠島動・植物調査報告書, (株)関西総合環境センター, 1~73

(京都市東山区)

○東京都のゴミムシ3種の記録

筆者は下記の様に比較的記録の少ないゴミムシ類を採集したので報告する。筆者の知るかぎりではいずれも東京都初記録と思われる。

1) キベリカタキバゴミムシ *Badister marginellus* BATES

1♂, 東京都大田区池上本門寺,	19. xii. 1989
2♂1♀, 同上,	20. xii. 1989
1♀, 同上,	4. i. 1990
1♂1♀, 同上,	7. i. 1990
1♀, 同上,	14. i. 1990
1♂, 同上,	28. i. 1990

いずれも落葉下の土をふるって家に持ち帰り電気プレート上で加熱して得た。本種は同属のヨツモンカタキバゴミムシやクロズカタキバゴミムシが川原や湿地などで採集されるのに対し森林性の様である。

2) オビモンコミズギワゴミムシ *Tachyura ceylanica* (NIETNER)

13頭, 東京都大田区池上本門寺, 17. xii. 1989
 前種と同じ方法で得た。本種はセイロン原産の南方系の種で関東では神奈川県平塚市の記録がある。筆者は別に下記の場所でも採集している。

1頭, 神奈川県川崎市久地多摩川, 17. ix. 1961
 本種を同定下さり種々お教え下さった笠原須磨生氏に心よりお礼申し上げる。

3) アカガネアオゴミムシ *Chlaenius abstersus* BATES

1♂, 東京都府中市住吉町多摩川, 1. iv. 1990
 アオゴミムシの中では個体数が少なく、冬期採集ではなかなか採れない種である。河川敷の石下より採集した。

参考文献

- 原色日本甲虫図鑑(II)(1985)保育社
 平野幸彦, 神奈川県昆虫調査報告書(1981)p.240
 (東京都大田区, 和泉敦夫)

訂正: 本誌89号において和泉氏が報告したアシプトケシキスイの採集年月日が8. viii. 1989となっておりますが7月の誤りなので訂正します。(編集部)

○ツクバホソナガゴミムシの冬季採集例

ツクバホソナガゴミムシ *Pterostichus (Melanius) tsukubasanus* KASAHARA は1988年に筑波山より記載され、他に花園山、八溝山からも記録があるが、個体数は少なく冬季の採集例も知られていなかった。筆者は原産地付近で、朽ち木内にて越冬中の本種を採集したので報告する。

2♂♂2♀♀, 茨城県真壁町湯袋峠付近, 10. iii. 1990

Melanius 亜属の他種が朽ち木内で越冬することはよく知られていたため、本種も同様の越冬方法をとるものとみて調べたところ発見できたものであ

る。採集した朽ち木は一部が水に漬かった状態で、本種の好湿性の強さがうかがえる。終わりにいろいろとご教示いただいた笠原須磨生氏にお礼申し上げます。

(群馬県伊勢崎市, 須田 亨)

○東京都のカクホソカタムシ類の記録

各種の朽ち木から発見されるカクホソカタムシ類は体が小さいことと、体色が地味なために採集しずらく記録があまり見られないグループである。

筆者は東京都(島嶼部を除く)において若干のカクホソカタムシ類を採集しているため既知産地にも触れて簡単にまとめてみた。

1. チビマルホソカタムシ *Murmidius ovalis* (BECK)

武蔵小金井¹⁾; 2頭, 町田市図師町, 9. viii. 1987.

2. アシブトカクホソカタムシ *Cerylon crassipes* SHARP

大田区池上²⁾; 2頭, 青梅市御岳山, 19. vi. 1980; 2頭, 松原村三頭山, 4. vi. 1989.

筆者は本種を山地でしか採集したことがないので大田区のデータは興味深い。

3. カクホソカタムシ *Cerylon sharpi* NAKANE

2頭, 松原村三頭山, 4. vi. 1989.

4. ダエンカクホソカタムシ *Philothermus depressus* SHARP

4頭, 八王子市初沢山, 16. vi. 1984; 2頭, 同市高尾山, 15. iv. 1988; 2頭, 同市景信山, 12. ix. 1987; 2頭, 青梅市御岳山, 20. vii. 1980; 1頭, 松原村三頭山, 4. vi. 1989; 2頭, 奥多摩町天目山, 9. viii. 1989.

低山地から山地にかけて、朽ちたアカマツ、モミ、ブナの樹皮下から発見される。

5. アメイロカクホソカタムシ *Philothermus pubens* (SHARP)

八王子市高尾山³⁾

カクホソカタムシ類の中では採集例の少ない種類であろう。

6. ムネビロカクホソカタムシ *Cautomus hystericulus* SHARP

1頭, 稲城市坂浜, 15. iv. 1979; 7頭, 町田市三輪町, 10. v. 1980; 1頭, 同市真光寺町, 19. ix. 1987; 2頭, 同市図師町, 9. viii. 1987; 1頭, 八王子市初沢町, 16. vi. 1984; 2頭, 同市高尾山, 15. viii. 1987; 1頭, 同市景信山, 12. ix. 1987.

低山地の朽ちたアカマツの皮下に数多く見られる。

7. アナムネカクホソカタムシ *Thyroderus porcatus* SHARP

大田区池上²⁾; 3頭, 町田市図師町, 9. viii. 1987; 6頭, 同市三輪町, 10. v. 1980; 1頭, 八王子市初沢町, 19. vi. 1988; 1頭, 同市高尾山, 14. ix. 1987; 1頭, 青梅市御岳山, 29. v. 1979.

東京都からは以上7種の他にも未記載種と思わ

れる *Cerylon* 属の数種を採集しているし、アラメカクホソカタムシも生息しているはずであり、将来は10数種の生息が確認されることになるとと思われる。

引用文献

- 1) 平野幸彦 (1975), 神奈川虫報 (46): 8-10.
- 2) 新里達也 (1984), 大田区の昆虫: 41-61.
- 3) 沢田和宏 (1988), 甲虫ニュース (83.84): 10.
(東京都世田谷区, 沢田和宏)

○横浜市緑区のカミキリムシの記録

〈田園都市線甲虫シリーズ その3〉

横浜市緑区と町田市三輪町にまたがって、「寺家ふるさと村」があり、一応自然が残されている。筆者は緑区側を中心に、何度か採集しており、最近この付近では、めっきり減りつつあるカミキリムシ類の記録をなんとか残したいと考えている。採集品の中に最近では、貴重と思われる記録があるのでここに報告したい。

1. セミスジコブヒゲカミキリ *Rhodopina lewisii lewisii* (BATES)

1♂1♀, 緑区寺家町, 1. vi. 1986, 大木 採集
枯枝のピーティングで one-pair 同時に採集。

2. ツヤケシハナカミキリ *Anastrangalia scotodes* (BATES)

1♂1♀, 緑区寺家町, 1. vi. 1986, 大木 採集
ガマズミの花上。

3. キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis* (PASCOE)

1頭, 同地, 22. vi. 1986, 大木 採集, ガマズミの花上。

1頭, 同地, 21. vi. 1987, 大木 採集, クリの花。

本種は緑区鉄町でもクリの花上で得られており、前2種よりは、宅地化が進んでも、残りやすい種と考える。

4. ヨツシジハナカミキリ *Leptura ochraceofasciata* (MOTSCHULSKY)

1♀, 緑区寺家町, 22. vi. 1986, 大木 採集
草むらを何頭かで飛んでいるうち1つだけ採っておいしたが、その後は得ていない。もっと採っておくべきだったと後悔している。

1980年前半は横浜北部(緑区, 港北区)でけっこう見られた種であるが、80年代の後半になって急速に減少し、90年代には北横浜では、珍品化するものと考えている。クロマツがホストと考えられ、マツ林の減少が原因と考えている。この傾向は他のマツをホストとする、ミドリカミキリやナカバヤシモモブトカミキリにも及んでいる。

(横浜市緑区, 大木 裕)

◇「ニュース」の原稿送付先◇

143 東京都大田区南馬込 1-38-6, 阿部光典